

サンゴ礁生態系保全行動計画2016-2020 取組状況報告様式

資料1-3-4

機関名：愛媛県

No.	具体的取組	実施状況・今後の課題
重点課題1 「陸域に由来する赤土等の土砂及び栄養塩等への対策の推進」における取組		
1	水質環境保全に関し、生活排水対策重点地域を指定	現在6地域、11市町が生活排水対策重点地域に指定されている。 重点地域の指定を受けた市町は、生活排水対策の推進に関する基本方針、生活排水処理施設に関する事項、生活排水対策に係る啓発に関する事項、その他生活排水対策の実施に関し必要な事項を盛り込んだ生活排水対策推進計画を策定し、計画の推進に取り組んでいる。
2	水質関係事業所等監視指導として、県下の事業場（松山市内を除く）を対象として、法又は条例に定める排水基準の遵守状況を監視するため、抜き打ちで立入調査を実施	以下のとおり立入調査を実施、不適合事業場に対し、指導を行っている。 364事業場立入 不適合3件(H28) 342事業場立入 不適合7件(H29) 345事業所立入 不適合3件(H30) 331事業所立入 不適合3件(R1) 約300事業所に立入予定 (R2)
重点課題2 「サンゴ礁生態系における持続可能なツーリズムの推進」における取組		
1	該当なし	
重点課題3 「地域の暮らしとサンゴ礁生態系のつながりの構築」における取組		
1	宇和海海域公園サンゴ保護対策の支援	本県では、足摺宇和海国立公園内の宇和海海域公園において、サンゴ類に被害を与えるシロレイシガイダマン類の発生が確認され、その食害が問題となっており、駆除を継続実施しなければ被害が拡大するおそれがあることから、宇和海海中資源保護対策協議会が実施するオニヒトデやシロレイシガイダマン類の駆除やモニタリングに要する経費を補助している。（県事業として平成3年度から継続。H28～R3年度まで毎年1件補助。） 加えて、足摺宇和海国立公園及び周辺海域において、より効果的な保全活動や持続可能な利用促進に資するため、足摺宇和海保全連絡協議会（事務局：環境省土佐清水自然保護官事務所及び公益財団法人黒潮生物研究所）に参画し、最も保全上の脅威であったオニヒトデ等のサンゴ食害生物の駆除事業の進捗状況やサンゴの被度の現況等について関係者間で情報を共有している。 なお、協議会では、県が補助する宇和海海中資源保護対策事業・環境省のマリンワーカー事業・水産庁の水産多面的機能発揮対策事業の限られた予算を効果的に充当できるよう、前年度迄の駆除実績等を踏まえた傾向を分析し、駆除エリアを分担するなど、関係者間の連携を強化することで、駆除やモニタリングを効率的に実施している。さらに、食害生物の駆除事業以外の海域保全上の課題（モニタリング精度の向上や定量的評価の算定手法等）、モニタリング方法の確立、教育利用等に関する検討も進めている。また、一部海域においては、オニヒトデの駆除数の低下が見られないことから、駆除作業の強化策や財源確保が課題となっている。 （R2年度実績 駆除回数10回（ダイバー数：述べ69名）、駆除数：オニヒトデ534個体（内酢酸注射532個体）、サンゴ食巻貝46個体）
その他（※3重点課題に該当しないがサンゴ礁保全行動計画2016-2020の趣旨を踏まえ、サンゴ礁生態系保全に対応する取組を予定している場合又は行った場合に記載する。）		
1	該当なし	